

実社会対応プログラム（公募型研究テーマ）

- ◆課題（研究領域）：「人口減少地域社会における安心しうるケア・システムの構築と生活基盤の整備」
- ◆研究テーマ：「地域特性が生きる医療介護総合計画の評価基準の確立——小児在宅医療を起点にして」

研究期間：H27.10～H30.9
委託費総額：11,230千円

<研究代表者>

加藤智章：
北海道大学大学院法学研究科／教授

<専門分野> 社会保障法

<研究目的・概要>

課題

地域特性を生かした長期的な視点に立った医療介護総合計画の測定

目標

実務者や多様な利害関係者との交流を通じた計画評価基準・方法の確立

手法

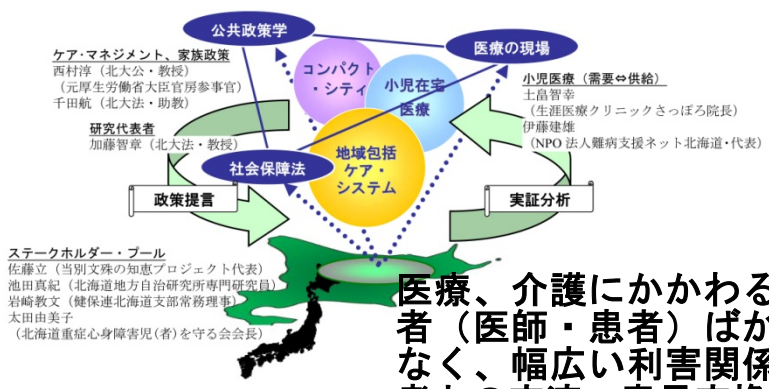
- ①研究者・実務家（医師・患者団体）・利害関係者とのトライアングル・コラボ
- ②小児在宅医療からの検証（論点整理・情報収集）

- ③評価要素の抽出・当てはめ
- ④ステークホルダーとの意見交換

効果・展望

より効果的・適切な計画作成に貢献する

<研究計画の特徴>



医療、介護にかかわる当事者（医師・患者）ばかりでなく、幅広い利害関係当事者との交流・意見交換

<目標とする研究成果>

- (1) 医療計画・介護保険事業計画の評価基準・評価方法を作成する

→実施事業・配分額等を見直す

- (2) 計画を評価し、目指すべき政策を提言する

→地域特性を生かした事業展開の方向性を示す

- (3) “北海道地域包括マネジメント＝産官学人材プール”を結成する

→本研究で培った研究活動の継続性を将来にわたり確保する